

Ⅰ．巻頭

創立10周年記念 特別号の発刊に寄せて



名古屋学芸大学
学長 井形昭弘

本学に学問のレベルを高め、研究を推進するために健康・栄養研究所が設置され活発な活動が展開されていますが、本学創設10周年記念行事として研究所の主催で「今、共食を考える」との公開シンポジウムを開催し大きな成果を挙げました。ここにその成果を特別号として内外にご報告する次第です。研究所の発展の歴史の一齣としてこの記念行事の公式記録を残し、後世の発展に向けて展望を語ることは極めて意義のあることと思います。

2013年2月23日に本公開シンポジウムは名古屋市のウイルあいちにおいて多数の聴衆を集めて開催されました。メインテーマは第二次食育推進基本計画の重点課題であり、健康日本21(第二次)の食行動目標でもある「共食」を取り上げましたが、時宜を得た企画であったと思います。特別講演として大脳生理学の権威である日立製作所(株)小泉英明先生から大脳生理学の立場から見た共食の意義を解析していただき聴衆に大きな感銘と共感を与えました。

シンポジウムには内閣府食育推進室清野富久江先生、愛知みずほ大学上原正子先生、現場の声としてポカラポット日進店食育マネージャー田代晴子先生、清水なかまの家の近藤京子先生にご登場いただき、本学塚原丘美准教授、特別講演を担当された小泉先生を含めて足立己幸研究所長座長の許に「共食で、あたたかい食育を」のテーマで活発な討議が行われました。その内容は現場の声を基調として未来を展望したもので前向きで非常に有益な成果が得られました。

ここではその成果を特別号として編集し後世に残そうとするものです。この成果は後世に対して大きな刺激になる内容で、かつ現在の研究所の活動のバロメーターをも示しています。

これからも研究所は学部と表裏一体となって大きく発展して行きます。ここに10周年での記念行事の足跡を残すことができることを幸に思います。この特別号から現在の研究所の意気込みを感じ取っていただければ幸に存じます。